

On Christmas Day Maria found **gloves** on the bus.
手袋

They were dropped by an old woman sitting next to her.
=gloves <受け身形>落とされた

The woman was getting off the bus at the **bus stop**. Maria thought for a moment,
バス停留所

“**I have wanted** my own gloves, but I have no money to buy them.
<現在完了形(継続用法)>

These look new and expensive. **If I keep them for myself**, who knows?
<if ~> もし~ならば

They are a Christmas present for me.”

But actually she soon got off the bus and **ran after** the old woman.
追いかける(run after)の過去形

Maria spoke to her, “Excuse me. You dropped these gloves, on the bus, didn’t you?”

The woman said, “Oh, thank you. These are mine.

Did you get off the bus to bring them to me?”

“Yes, but it’s nothing. Goodbye,” Maria said and was going away.

Suddenly the woman said, “Wait! The next bus won’t come soon.

Why don’t you come to my house and have a cup of tea with me?”
<Why don’t you ~?> ~したらどうか

When the woman, Mrs Green, and Maria were having tea, Mrs Green said to Maria, “You are a very kind girl.”

Maria said, “I’m not a kind girl. **I was going** to keep your gloves for myself at first.”
<be going to ~> ~するつもりである

Then Mrs Green said quietly, “But you didn’t.

You are **honest enough** to tell me the **truth**. You’re really a good girl.
正直な ~するほど十分に 本当のこと

Well, I’ll give you these gloves. And we’re friends from now.”

Maria was surprised and happy **to hear her words and take the gloves**.
<不定詞 感情の原因> ~して…

She thought she got two great Christmas presents from Mrs Green.

クリスマスの日、マリアはバスで手袋を見つけました。

それらは彼女のとなりに座っているおばあさんが落としたものでした。

そのおばあさんはそのバス停で降りようとしていました。マリアは一瞬考えました。

「ずっと自分の手袋が欲しいと思っているけれど、私には買うお金がない。

これらは新しくて高そうだわ。もし私が自分で持っていたても、だれが知っているだろう？

これらは私へのクリスマスプレゼントだわ。」

しかし、実際は彼女はすぐにバスを降り、おばあさんを追いかけました。

マリアはおばあさんに話しかけました。「すみません。あなたはこの手袋をバスで落としたんじゃないですか？」

「まあ、ありがとう。それらは私のだわ。

私に手袋を渡すためにあなたはバスを降りたの？」とおばあさんは言いました。

「ええ、でも大したことじゃないです。さようなら。」とマリアは言って、行こうとしました。

突然、そのおばあさんが言いました。「待って！ 次のバスはすぐには来ないわ。

私の家に来て、私とお茶をのんでいったらどうかしら？」

そのおばあさん、グリーン夫人とマリアがお茶を飲んでいるとき、グリーン夫人はマリアに言いました。「あなたはとてもやさしい女の子ね。」

マリアは言いました。「私はやさしい女の子じゃないです。最初、私はあなたの手袋を自分のものにするつもりだったの。」

そのときグリーン夫人が静かに言いました。「でも、あなたはそうしなかった。

あなたは本当のことを私に教えてくれるくらい正直だわ。あなたはほんとうにいい女の子。」

さあ、あなたにこれらの手袋をあげるわ。それに、今から私たちは友達よ。」

マリアはその言葉を聞き、手袋を受け取って、とてもびっくりし、また幸せでした。

彼女は、グリーン夫人から二つのすばらしいクリスマスプレゼントをもらったと思いました。

Dad : Jean, why don't we go to a movie tomorrow?

Jean : OK. What movie are we going to see?

Dad : We are going to see 'A Peaceful World'.

Jean : I know that movie. It's a war movie, isn't it?

Dad : Yes. It's a good human drama. I expect it will get some awards this year.
予想する 何かの 賞

Jean : I don't like war movies. People fight and kill each other in those movies.

I don't want to see such terrible things.
悲惨 (ひさん) な

Dad : Girls often say so.

But there are many good war movies which got famous awards.
〈先行詞〉 〈関係代名詞 (主格)〉

They tell us something important about our lives, our world and peace.

We have to think about these topics as global citizens.

I think you are already old enough to see such movies.
〜するほど十分に

Jean : Well ... OK. I'll go with you and see the war movie tomorrow. But ...

Dad : But what?

Jean : Next weekend, please take me to the movie which I want to see.
〈先行詞〉 〈関係代名詞 (目的格)〉

Dad : All right. What kind of movie do you want to see?

Jean : A love story. It's the most popular among young people now.
ラブストーリー

Dad : Well, I don't like love stories.

Ask your mother to go with you.
〈ask+A+to 〉 A に〜するようにたのむ

Jean : Oh, Dad. Love stories tell us something important about love.
愛

I think you are still young enough to see love stories!

お父さん：ジーン，明日は映画に行かないかい？

ジーン： いいよ。何を見に行くつもりなの？

お父さん：『ピースフル・ワールド』を見に行くつもりだよ。

ジーン： その映画，知ってるわ。それ戦争映画だよ。

お父さん：そうだよ。すばらしい人間ドラマだ。私は今年何かの賞をとっているよ。

ジーン： 私は戦争映画は好きじゃないわ。人々がおたがいが戦ったり殺したりしてる映画よ。

私はそんな悲惨なものを見たくないわ。

お父さん：女の子はよくそう言うよ。

でもね，有名な賞をとったすばらしい戦争映画がたくさんあるんだ。

それらは私たちの生命や世界，平和について何か大事なことを教えてくれるんだ。

私たちは地球市民としてそれらのテーマについて考えなくてはいけない。

私は，きみがもう，そういう映画を見るくらい十分大きくなったと思うんだよ。

ジーン： うーん…わかった。明日はお父さんと一緒に戦争映画を見に行くわ。でも…

お父さん：でも，なんだい？

ジーン： 来週末，私の見たい映画に連れて行ってくれないかな。

お父さん：いいとも。何の種類の映画が見たいんだい？

ジーン： ラブストーリーよ。今，若い人たちの間で一番人気があるの。

お父さん：ふむ，私はラブストーリーは好きじゃないな。

お母さんにいっしょに行ってくれるよう頼みなさい。

ジーン： まあ，お父さん。ラブストーリーは愛について何か大事なことを教えてくれるのよ。

私は，お父さんはまだ，ラブストーリーを見るくらい十分若いと思うわよ！